

令和7年度 社会科 授業改善推進プラン

1 大田区学習効果測定の結果分析（昨年度の授業改善プランの検証を含む）

正答率が目標値と比較して±5ポイントを基準として≡で表す。

基準を上回るものを☆、下回るものを▽で表す。

※社会科は学年によって領域が異なるため、同学年で経年変化。

	領域	令和7年度	令和6年度
第4学年	地域や市の様子	≡	▽
	生産や販売	≡	≡
	安全を守る働き	≡	≡
	市の様子の移り変わり	≡	≡
第5学年	都道府県の様子	≡	▽
	生活環境を支える活動	≡	▽
	自然災害からくらしを守る活動	≡	▽
	伝統や文化、先人の働き	☆	▽
	特色ある地域の様子	≡	▽
第6学年	国土の自然などの様子	▽	▽
	農業や水産業	▽	≡
	工業生産	▽	▽
	産業と情報の関わり	▽	≡
	国土の自然環境と国民生活	▽	≡

〈昨年度の授業改善プランの成果〉

- ・3年生から社会科見学や資料を活用し日常生活と結び付けて学習したことで身近で働く人々の仕事について理解が深まった。
- ・地図記号や資料を日常生活と結び付けて考える機会の設定が基礎知識に対する関心を高めるために有効だった。

〈正答率の低かった問題〉

- 4年…市の様子の移り変わり、安全なくらし(火事)
- 5年…伝統や文化、先人の働き
- 6年…国土の自然などの様子

2 授業改善のポイント

適切に資料を読み取り、知識の定着・活用ができるようにするために

中学年	・資料の読み方と、資料から読み取れることを抜き出してまとめることについて、丁寧に指導していく。 ・地図帳の活用や新出用語の指導を積極的に行い、知識の定着を図る。
高学年	・写真や映像などを中心とした導入を行い、基礎知識の補完をするとともに、問題の理解をしやすくする。 ・単元末、朝の時間や隙間時間を活用して、ドリルパークで既習事項を復習する時間を設定し、基礎基本の定着を図る。